

## 幼小の円滑な接続に向けての連携の充実

森町立さわら幼稚園 学級数4 (園長 大島 修子)

### □ 実践の概要

本園は、これまでも定期的な共同研修や保育及び授業交流を行ってきたが、令和2年度に新園舎へ移転し、幼稚園、小学校及び中学校が隣接したことにより、更なる学校段階等間の交流と連携の充実を目指し、幼小連携の取組を推進している。

#### 1 実践の目的

森町教育委員会主催の研修や森町教育水準向上対策協議会のサークル活動を通して、子どもたちの学びを重視した交流の充実と幼小中の円滑な接続を図る。

#### 2 実践内容

##### (1) 実施計画

- ・幼稚園及び小学校の交流による園児及び児童の育ちの共有
- ・小学校教諭による園児の様子を見取った内容の交流及び入学前の保護者への説明の実施

##### (2) 取組の具体

- ・小学校第1・2学年を招待して発表会の演目を披露したり、お店屋さんごっこをしたりして交流を深めた。その際、園児の様子を小学校へ情報提供している。また、授業参観や交流を通して、卒園後の児童の育ちを把握することにより、教育課程等の改善や指導方法の工夫につなげている。
- ・保護者の要望を受け、10月に森町教育委員会の就学担当及び小学校の特別支援教育コーディネーターによる園児の行動観察及び保護者との面談を行っている。その際に、小学校や通級指導教室の取組内容についての説明を行い、保護者の不安等の解消を図っている。



【お店屋さんごっこでの交流の様子】

##### (3) 取組後の点検・評価、工夫改善

- ・幼稚園及び小学校を会場に1回ずつ小学校第5学年と交流を行うなど、様々な学年との交流は、園児の小学校への親しみを深め、小学校入学に向けて安心感をもつよい機会となっている。また、小学校教諭にとっては、園児の理解を深め、幼稚園教諭と卒園後の児童の育ちについて共有できるよい機会となっている。
- ・園児の保護者が入学前に小学校教諭と面談することにより、保護者の不安等が軽減され、安心して小学校へ就学させることにつながった。



【小学校第5学年との交流の様子】

##### (4) 改善後の取組

- ・幼稚園と小学校の交流の目的をより明確にするため、研修等を活用し、幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領とのつながりなどの理解を深め、より互惠性のある連携につなげる。さらに、地域に関する学習について、幼稚園、小学校及び中学校が一貫した教育課程となるよう、現在の取組を系統的に整理する。
- ・教職員の異動後も持続可能な取組とするため、計画的かつ継続的に進めるとともに、小学校教諭、園児及び保護者の安心感を保障する必要性について共有し、より連携した取組にする。

#### 3 実践のポイント

- ・研修等を通して、幼小の教職員が直接話す機会を位置付けたことにより、連携をする場の創出につながったこと
- ・小学校入学後に園児が安心して過ごすことができるよう、小学校教諭による園児の行動観察と保護者との面談を計画的に行い、その情報を幼小の教職員で共有すること

## 町全体で取り組む幼小接続支援 架け橋プログラムの実施

奥尻町立青苗小学校 学級数4 (校長 黒川 貴功)

### □ 実践の概要

本校は、幼稚園、小学校、町教育委員会、役場福祉部局等が連携し、架け橋プログラムに取り組んでいる。また、本町は小学校長が幼稚園長を兼任しており、幼小の連携は比較的に取りやすい環境にあることから、架け橋期プログラムの実施によって、さらに効果的な引継ぎと幼児、児童の健やかな成長につなげている。

### 1 実践の目的

- ・ 幼児、児童の困り感を多角的に捉え、その解決に向けた具体的、組織的な取組を行う。
- ・ 幼稚園及び小学校の教職員の困り感に、具体的かつ組織的に解決するネットワークを構築する。
- ・ 引継ぎを一時的な情報交換に留めず、卒園前、卒園後も継続的な教職員の連携を行う。
- ・ 「目指す姿」に向けた架け橋期のカリキュラムの内容を検討する。

### 2 実践内容

#### (1) 実施計画

- ・ 「架け橋プログラム運営委員会」設置（町内の園長、校長、代表教諭、役場福祉部局、教育委員会SSW等）
- ・ ワークショップ型の協議で、幼小の引継ぎで必要な内容や5歳児と新入学年児童の困り感、悩みの交流
- ・ 架け橋期の「目指す姿」についての協議、決定、共有
- ・ 幼稚園の全体計画やスタートカリキュラムの共有、見直し
- ・ 架け橋期のカリキュラム案の作成

#### (2) 取組の具体

- ・ 「架け橋プログラム運営委員会」を年間4回程度実施し、架け橋期のカリキュラム案を検討するとともに、会議内容を園や学校へ周知し、共有する。
- ・ 保育者や教諭が幼稚園、小学校の行事、研究授業等の参観を通して、互いの教育課程に理解を深める。
- ・ 幼児と児童の交流を図り、児童の幼稚園訪問、幼児の小学校行事の参観を実施する。
- ・ 町教育委員会が主催し、幼小合同カンファレンスを年間2回実施し、上記の取組を共有し、架け橋期のカリキュラムとして、必要な活動を検討する。その際、道教委SCにオンラインで指導助言を受ける。

#### (3) 取組後の点検・評価、工夫改善

- ・ 「架け橋プログラム運営委員会」実施後に今後の運営に関するアンケートを実施することにより、各学校の取組の成果や課題、要望等を確認することができた。
  - ①幼稚園の先生方、小学校の先生方の抱える困り感について知ることができた。「そう思う」87.5%
  - ②架け橋プログラムの実施について理解が深まった。「そう思う」100%

#### (4) 改善後の取組

- ・ 役場福祉部局と連携することで、乳児期からの幼児、児童の実態を踏まえ、架け橋プログラムの見直しを行う。
- ・ 架け橋期の「目指す姿」を協議する際に、保護者の意見も取り入れる。
- ・ 架け橋プログラム運営委員会で構築した関係者のネットワークを、特別支援教育、いじめ、不登校防止対策等についての課題解決に生かす。
- ・ 幼小の連携強化を行いつつ、小中及び中高の連携・接続をプログラム化し、それぞれの校種間連携による「目指す姿」を定め、その実現に向けた取組を関係者全員が自分事として取り組んでいくことを目指す。

### 3 実践のポイント

- ・ 町全体で架け橋プログラムの実施状況を共有するとともに、「目指す姿」を幼・小・中・高等学校の関係者で共有すること
- ・ 奥尻町校長会で架け橋プログラムの素案を検討・協議、改善し、奥尻町教育委員会によって運営を行い、教職員の負担感を軽減すること
- ・ 外部の専門家からの指導助言を受け、架け橋プログラムの実施状況の評価、改善を行うこと

# 幼児一人一人の可能性を引き出す教師の働きかけ

羅臼町立羅臼幼稚園 学級数3 (園長 官代 眞由美)

## □ 実践の概要

本園は、これまでも幼児の「やってみたい」という気持ちを大切にし、幼児の気持ちに寄り添う保育を実施してきた。今年度はさらに、幼児一人一人がもっている力を引き出しながら、幼児が共に育ち合う姿を目指し、日々の保育の振り返りや園内研修を工夫するとともに、取組を評価・改善しながら保育実践に取り組んでいる。

## 1 実践の目的

幼児一人一人がもっている力を引き出す教師の働きかけができるよう、自らの保育を振り返り、活動内容、環境構成、援助を検証・改善することを通して、幼児に自ら学ぶ力などの資質・能力を育む。

## 2 実践内容

### (1) 実施計画

- ①保育実践と振り返りの工夫（フォトカンファレンスの活用と工夫）
- ②幼児一人一人の発達、興味・関心に応じた教師の働きかけの工夫と共通理解
- ③幼児理解に基づく保育環境デザインの充実（保育マップの作成と活用）

### (2) 取組の具体

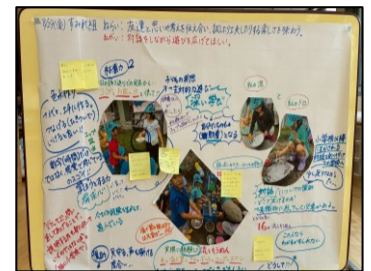
- ①フォトカンファレンスを活用した保育実践の振り返りを定期的実施し、幼児がしている遊びの理解に努めるとともに、幼児の内面に「やってみたい」という自ら学ぶ気持ちを育むために必要な教師の働きかけを探る園内研修を通して職員の共通理解を図り、評価・改善し日々の保育につなげた。また、公開保育後には小学校教諭と幼児の姿を協議し、幼児の主体的に遊ぶ姿が小学校での学びにどうつながっていくのか相互理解を図った。
- ②全教職員が参加する子どもの姿を語り合う会議を毎月行い、幼児一人一人の興味の幅の違いを理解することに努めた。その幼児がもっている「良い力」を引き出すために保育マップを活用し、評価・改善を行った。
- ③遊びに必要な環境だけではなく、「その幼児がこの遊びのどこに面白さを感じているか」「友だちとの関わりが深められそうな場面はどこか」なども保育マップに書き込む等、工夫・改善しながら進めた。

### (3) 取組後の点検・評価、工夫改善

- ①フォトカンファレンスでの振り返りを積み重ねることで、環境構成や教師の働きかけについて全教職員で共有することができた。学校訪問における教育局の主査や道の幼児教育相談員からの助言を受け、フォトカンファレンスのねらいを絞るなどの改善を図り、次の保育の充実につなげた。
- ②教師が、幼児の見方や捉え方を見直し、一人一人の良いところに着目し、自ら育とうとしている力を信じる保育を進めたことで幼児が安心して自己発揮し、互いの良さを認め合う姿が見られた。
- ③幼児が遊びでこだわっているポイントや面白がっているポイントを見取ることで、目に見える遊びの展開につながっている幼児の思いや、そこに至った背景を知ることができた。そうした思いや背景を踏まえて幼児同士が関わられるよう援助したことにより、幼児が共通体験を通し育ち合う姿が見られた。

### (4) 改善後の取組

環境構成や教師の働きかけという観点での検討はできたが、具体的に指導計画に反映させるまでには至らなかったため、指導計画の改善を図る。また、幼児期の学びを小学校での学びにつなげる意識を高めるために、このような協議を小学校教諭と一緒にすることを大切にしていく。



【フォトカンファレンスによる振り返り】



【幼児の興味に沿った保育マップ】



【フォトカンファレンスの様子】

## 3 実践のポイント

- ・教師が原因を探り解決するのではなく、幼児一人一人がもつ力や可能性を信じ、幼児期にふさわしい生活を通してその力を引き出す教師の働きかけができるよう、協議や振り返りを積み重ねたこと
- ・幼児理解を深め、幼児の成長を全教職員で語り合う場を設定したこと

# 自ら学ぶ意欲や自ら学ぶ力を培う幼児期にふさわしい生活の展開

～羅臼昆布を通して～

羅臼町立春松幼稚園 学級数2 (園長 高原 美樹)

## □ 実践の概要

本園は、幼児が自ら学ぶ意欲を高めることができるよう、地域コーディネーターと連携し、幼児が自身の興味や関心に沿った直接的な体験が得られるようにするとともに、教師が幼児の気付きや発見に共感したり、友だちと十分に関わって遊びや生活を展開できる環境の構成や援助を行ったりしている。

## 1 実践の目的

知床世界自然遺産である羅臼町の自然の中で毎日元気に過ごす幼児が、友だちと共感しながら考えたり、対話をしたりすることを通して、当たり前のように身近にある自然が、他の地域にはない素晴らしいものだという事に気付くとともに、自ら学ぶ意欲を高める。

## 2 実践内容

### (1) 実施計画

自然に触れる体験（散歩・海遊び）→昆布場見学・体験→自然に触れる体験（散歩・海遊び）・話し合い→昆布のヒレ刈り体験→食育活動

### (2) 取組の具体

- ①海遊びでは、教師が幼児の気付きや発見に共感し、新たな意欲をもてるようにするとともに、他の幼児の興味・関心が広がるよう、振り返りを行った。
- ②幼児が、海遊びを通して興味や関心をもった昆布に関わることができるよう、幼児の活動に沿って昆布場見学・体験や海遊びを行った。



【日常の海遊び】



【昆布場見学・体験】

- ③海遊びを通して幼児がもった「もっと昆布と関わりたい」という思いや願いの実現に向けて、幼児同士の話し合いの場を設定するとともに、話し合いを踏まえ、昆布干しや地域の方の協力による昆布のヒレ刈り体験を行った。



【話し合い（5歳児）】

### (3) 取組後の点検・評価、工夫改善

- ・教師が、一人一人の幼児が何に興味や関心をもって楽しんでいるのかを見取り、その後、どのようなことに興味を広がりそうなのかを予測しながら、援助したことにより、幼児は、身近な自然のよさに気付くことができた。
- ・教師自身がどのように自然環境と関わっていくか、幼児同士の対話をどのように支えていくかを全教職員で検討し、共有することができた。
- ・学校運営協議会の地域コーディネーターと幼児に育ってほしい力を共有したことにより、幼児の興味や関心に沿った活動を展開することができた。
- ・幼児同士が互いの気付きを共有したり、さらに地域の自然への興味や関心を高めたりする環境の構成や援助を工夫する必要がある。



【昆布干し】

### (4) 改善後の取組

- ・幼児が、「友だちに認めてもらえた」という満足感をもったり、「みんなでやってみよう！」という意欲をもったりすることにつながるよう、幼児同士の対話を広げるなど、教師の関わり方を工夫する。
- ・幼児が、浜に打ち上げられる昆布の量の変化に気付き、さらに疑問をもつことができるよう、羅臼昆布の歴史に関する写真集を教室内に置くなど、環境づくりに努める。



【昆布のヒレ刈り】

## 3 実践のポイント

- ・日常的に自然と触れ合える教育活動の充実と教室環境の工夫
- ・幼児の姿からの見取りと幼児理解、保育反省の充実
- ・「主体的・対話的で深い学び」の意識・学校運営協議会の地域コーディネーターとの連携